

時計としての機能に欠けた壁掛け時計

「BlockClock」シリーズの製品化。ブロッククロックは積木を積み重ねたような針だけの壁かけ時計で時刻を正確に確認することはできません。時計は時を正確に計測する機器ですが、ブロッククロックは時間を形として表現するアナログ装置です。

デジタル的な社会の動きを見つめ直したいとの思いからの発想で工業デザインの機能的・合理的な考え方とは別の位置付けのデザインです。若い時に考えたものですが、今の時代に有るべきものと認識し、日本で唯一の時計ムーブメントを製作している老舗の小さな専門メーカー(株)タカネとのアライアンス事業として取り組みました。(株)タカネは自社ブランドを持たないOEMメーカーですが、試作のブロッククロックシリーズを見て自社ブランドを持ちたいとの思いが私の思いと一致し製品化したものです。

今後の展開はブランド化へ向けて、シリーズの拡充とプロモーションにポイントを置き、(株)マクアケにてクラウドファンディングでの展開も8月中をスタートとして展開致します。

「ブロッククロック」のデザインコンセプトは時間を確認するのではなく、時の形を確かめる行為になります。ほんの少し人生を豊かにする新しい価値観の時計です。

どんな形になったのか見たくなる時計でブロッククロックの魅力を感じていただけます。

今、考えている事

今、社会の貧困や格差を知り、大震災や原発事故そして感染症を体験した私たちの潜在的な危機意識は相当な変化を強いられたことは確かでしょう。

コンピュータの進化は人工知能を生み出し、通信技術の革新が2025年80億の人々をデジタルでつながる世界(IT)を可能とする環境は何をもたらすのでしょうか。

少し前SFで見た出来事が現実となって迫ってくる状況はデザイナーの好奇心を揺さぶりデジタルの1と0の無機的な世界を考えると、人生を改めて見つめ直すことの重要性を感じます。

「人が生き活きと生活できる考え方」そのために私たちは何ができるのか、これから何をなすべきかが問われていると感じます。

技術革新のワクワクする世界と人生を豊かにする世界を想像しつつデザインは今、何を基本に考えるべきかの大きなテーマがそこに存在し、新しい問題解決のプロセスが求められていると感じます。

新しいモノの見方・考え方・に期待したい思いに駆られます。

そしてさまざまな時代を生き抜いた人々の強みは一体何なのか、その知恵を学ぶべきでしょう。

過去の知恵があり未来の知恵を生むことは確かなわけですから。

私は工業デザインを専攻して40年以上になり、メーカーの量産デザインを手がけ続けて来ました。

戦後の日本の工業デザインの流れを体感してきた者の1人で年齢からライフワーク的なデザインテーマを求める考え方に至っています。

社会の変容の中、あと数年のワークで何ができるのか。社会にどのように貢献できるのかを問い直したいと考え、今後の数年間はのびのびとライフワーク的デザインに力を注いでいきたいと思っています。